

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 教育学研究科

基準 2 内部質保証

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 2022 年度課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0203	外部評価の充実
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
2022 年度課題事項は「学部と連動し、事業計画への外部評価予算の申請」であったが、大きな進捗は見られない。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0201	内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。	自己評価	B
評価の視点	(3)大学全体規模や学部、研究科その他の組織（教職課程を実施する全学的組織を含む）における自己点検・評価をそれぞれ定期的 to 実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。 (4)学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。 (5)行政機関、認証評価機関等から指摘事項があった場合、それに適切に対応しているか。			
現状説明				
点検・評価に際しては点検・評価水準を高め、教職員の質保証への意識を深めるため、自己点検評価WGを設置し、教育学研究科委員会において点検を行った [2-1]。 本研究科には定期的に文部科学省による教職課程に関する調査が入るため、これを意識して日常的に全体にかかわる点検、見直しを行っている（教職課程、教員の専門性など） [2-2] [2-3]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0203	教職課程認定大学等実地視察および教職課程再課程認定への対応

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0203	外部評価の充実
今後の改善・向上方策	
0203 教育学研究科の現状を認識しさらに質の向上を図るため、現代教育学部・教育学研究科の教員全員で自己点検・評価活動を行う [2-1]。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0203	学部と連動し、事業計画への外部評価予算の申請。
今後の改善・向上方策	
0203 学部と連動し、外部評価導入を目的とした予算請求を継続して行い、外部評価の実現に努める。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	*各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 教育学研究科

基準 4 教育・学習 (4a)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 2022 年度課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0403	大学院生にとってより魅力的なカリキュラム構成の検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
魅力的なカリキュラムを構成できるよう毎月教育学研究科大学院 WG 及び教育学研究科委員会を開催し、検討する機会を設定している。大学院生が研究テーマや取得希望免許状をもとに修学し、研究活動が行えるようなカリキュラム構成及び複数教員の指導体制を整えている [4a-2、4a-3]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0401	達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。	自己評価	B
評価の視点	(1)学位授与方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。また、教育課程の編成・実施方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程および教育・学習の方法を明確にしているか。 (2)上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。			
現状説明				
学生便覧に DP 及び CP を明示し [4a-4]、加えて学生には「学事カレンダー」[4a-5] を配付し、説明を丁寧に行い、指導教員とともに詳細な学習計画を立て、学修成果を達成するための方法を明確にするとともに、学生便覧に明示している[4a-1]。				

評価項目	0402	学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	自己評価	B
評価の視点	学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 ※ 具体的な例 ・授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講。 ・各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化。			

	・学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化。 ・学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間および単位の設定。
現状説明	
教育学・保育学、教育心理学、教科教育学の3つの領域を基盤とした科目を配置し、授業科目及び単位数を学生便覧で明示している [4a-6]。また、各授業科目の到達目標についてはシラバス [4a-7] にて示している。学事カレンダー [4a-5] で学習の順次性を示し、授業科目の年次・学期配当においては各学期の大学院時間割 [4a-8] にて学生に明示している。	

評価項目	0403	課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	自己評価	B
評価の視点	(1)授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果および教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。 (2)ICT を利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。 (3)授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。 ※ 具体的な例 ・学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応。 ・単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置。 ・シラバスの作成と活用（学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容であるか。）。 ・授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等などの措置。			
現状説明				
授業科目のシラバス第三者点検を毎年全教員で行い、DP との関連及び教育課程の編成・実施方針に沿い、学修成果達成のために適切な授業形態、方法がとられ、期待される効果が得られる授業になっているかを検討している [4a-9]。学生の学習の進捗状況や達成度の確認を行うために、1 年次の 9 月と 2 月には「修士論文中間報告会」を実施し、2 年次には 9 月に「修士論文概要発表会」を実施し、2 月の「論文発表会（公開審査会）」までに計画的に研究を進めることができるようにしている [4a-10]。また、その機会に色々な分野の教授より指導を受けることにより、学修成果のフィードバックを行っている。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0402	教育学・保育学、教育心理学、教科教育学の3つの領域を基盤とした科目を配置し、学生の多様な研究テーマに対応して、研究活動が行われるような指導体制を整えている

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0403	教育課程及びその内容、教育方法について
今後の改善・向上方策	
学修成果達成のために適切な授業形態、方法がとられ、期待される効果が得られる授業になっているかについては、	

毎年検討はしているが、近年、留学生が多く日本語教育プログラムとの連携が必要な状況があり、今後も教育課程や教育方法の適切性についての検討が必要である。

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
[0401] 学生便覧に学位授与方針 DP、学生が修得すべき知識、技能、態度などの学習成果、「学事カレンダー」を配布して明確に示されている[4a-4][4a-5]。 [0402] 教育学・保育学、教育心理学、教科教育学の3つの領域を基盤とした科目を配置し明示、学習の順序性等を示している[4-6]。 [0403] 課題事項および今後の改善・向上方策の中で、留学生の増加に伴い、日本語教育プログラムとの連携の必要性について危機意識が芽生えた点は、評価に値する。また国際的な教養や視野を備えた教師を育成するために、すでに留学生が学ぶ日本語学校への訪問に加え、本学への留学を希望する学生からの問い合わせに対しては、個別にオンラインで対応するなどの努力がなされている。一方、留学生に対しては一定の日本語能力が身につくよう、合格後に必要に応じて入学前から国際交流課と連携し、日本語教育プログラムの受講ができるよう支援している。 さらにヒアリングにおいて大学院進学者のその後の進路を確認した結果、半数以上が教員への進路をとっており、日本人、留学生を問わず教育の意義が認められた。	
長所・特色	
[0401] 学生便覧に加え、「学事カレンダー」を学生と共有することで、学習の順序性や大学院の時間割がより明確になる。[4a-5][4a-7] [0403] 国際的な教養や視野を備えた教師を育成するために、すでに留学生が学ぶ日本語学校への訪問や留学を希望する学生に対して個別にオンラインで対応するなどの努力がなされている。また留学生に対しては一定の日本語能力が身につくよう国際交流課と連携し、日本語教育プログラムの受講ができるよう支援している。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入 【A】緊急の改善を要する事項 【B】検討を要する事項	
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するか評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 教育学研究科

基準 4 教育・学習 (4b)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ 2022 年度ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0406	当該研究科は院生数が少ないことからシラバスでの指標に基づき個別の学修成果について把握し、質的な評価を行っているが、その結果をもとに改善向上に向けた具体的な取り組みが望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教育学研究科は幼稚園教諭、小学校教諭の専修免許状を付与できる教職課程を有しており、より専門性の高い教育に関わる知識・技能の習得を目指す。そのため教職課程認定大学等実地視察等 [4b-1] に耐える教育課程の自己管理を行うと共に、各院生の専門性を高めるための教育課程編成について大学院 WG で検討を行っている。	

☒ 2022 年度課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0405	成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
シラバス [4a-7] および学生便覧 [4b-2] に評価基準、修了要件を明示し、学位審査においては修了認定の客観性、厳格性を確保するため、「教育学研究科学位論文評価項目」[4b-3] を策定している。	

☒ 2022 年度課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0406	学習成果を把握する方法を確立する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教育学研究科における学習成果を把握するため、1 年次には 9 月、1・2 月の 2 回「修士論文概要発表会」を実施し、第 3 者の審査及び評価を受ける。また 2 年次には副査を加えて審査評価を受けることで適切に各院生の学習成果を把握する手順を定めている [4b-4]。	

☒ 2024 年度課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0406	教育課程およびその内容、教育方法について点検・評価する方法についての検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
シラバス第三者点検 [4a-9] を実施し、教育課程及び各授業科目の教育内容・方法を点検している。2023 年度には、全科目において DP との関連を踏まえて点検を実施した [4b-5]。	

☒ 2024 年度課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0406	教育課程およびその内容、教育方法について点検・評価する方法についての検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教育学研究科では、近年外国人留学生が増えていることから、既存の教育課程や方法に加えて、日本語教育プログラムと連携を図り、1 年次には研究遂行に必要な日本語力の習得を目指した独自の教育方法に基づく実践を始めている。各院生の日本語力には差があるため、教育学研究科の教育課程への反映には至らないが、個々の能力に応じた教育方法を大学院 WG で検討しながら [4b-6]、実践を進めている。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0404	成績評価、単位認定および学位授与を適切に行っていること。	自己評価	B
評価の視点	(1)成績評価および単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。(2)上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。 (2)成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。 (3)既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。 (4)学位授与における実施手続および体制が明確であるか。 (5)学位授与方針に則して、適切に学位を授与しているか。			
現状説明				
成績評価については、シラバスに評価基準を示しそれに従った客観的に実施している [4a-7]。また、学位授与における授与方針、実施手続き、体制については、学生便覧に明記し、それに基づいて適切に実施している [4b-2、4、7]。				

評価項目	0405	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価していること。	自己評価	B
評価の視点	(1)学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (2)学習成果を把握・評価する指標や方法は、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。 (3)指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、大学として設定する目的に応じた活用を図っているか。 ≪学習成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト（GPS-Academic） ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査（学びに関する調査 等） ・卒業生、就職先への意見聴取 ※ 具体的な例 ・授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講。 ・各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化。 ・学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化。 ・学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間および単位の設定。			
現状説明				
2022 年度課題事項の取組でも述べたとおり、教育学研究科における学習成果を把握するため、1 年次には 9 月、1・2 月の 2 回「中間報告会」を実施し、第 3 者の審査及び評価を受ける。また 2 年次には副査を加えて審査評価を受けることで適切に各学生の学習成果を把握する手順を定めている [4b-4]。今後さらに、学修成果を客観的に測定するアセスメントテストやルーブリックを活用した方法を取り入れることも検討していきたい。				

評価項目	0406	教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	C
------	------	--	------	---

評価の視点	(1)教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしているか。 (2)課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用するなど、適切な情報に基づいているか。 (3)外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫を行っているか。 (4)自己点検・評価の結果を活用し、教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。
現状説明	毎年、シラバス第三者点検 [4a-9] を実施し、教育課程及び各授業科目の教育内容・方法を点検し、改善に向けて取り組んでいる。2023 年度には、全科目において DP との関連を踏まえて点検を実施するなど [4b-5]、自己点検の内容を明確にしながら向上を図っている。学生と共に大学院生募集に取り組むなど、意見交換を行う機会をもっているが、今後さらに教育課程についても要望や意見を取り入れる機会を検討していきたい。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0405	1 年次より年次進行で院生の学習成果を確認する仕組みを作っている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	学生のニーズに合わせた教育課程の改善
今後の改善・向上方策	
留学生の割合が高く、既存の教育課程だけでなく、日本語能力習得の必要性や修了後の進路のニーズにも応えられる教育課程の検討を進める必要がある。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
[0404] 成績評価および単位認定については、卒業要件と評価基準が学生便覧やシラバスに明記されていることを確認でき、客観的かつ適切に実施されるようになっているといえる[4b-7]。学位授与における授与方針や実施手続きは、学生便覧に明記してそれに基づいて適切に実施していることがわかる [4b-2] [4b-4][4b-7]。 [0405] 学習成果を把握・評価するうえで、1 年次に 2 回「中間報告会」を実施し、第 3 者の審査及び評価を受けていることが確認できた。さらに 2 年次には副査を加えて審査評価を受けることで、適切に各学生の学習成果を把握する手順を定め、組織的な確認がなされていることが確認できる[4a-3] [4b-4]。 [0406] 事前質問の回答より、外国人留学生の受入れ拡大に対応し、中国首都師範大学との共催で FD/SD 研修会や国際シンポジウムの実施、また、首都師範大学において教員や学部生・大学院生を対象に中部大学幼児教育学科の保育者養成についての紹介、国際幼児教育学会において教員養成の取組についての紹介などを図るとともに、大学院留学生誘致にも期待している。また、近年外国人留学生が増えてきていることから、既存の教育課程や方法に加えて、日

本語教育プログラムと連携を図り、教育学研究科の教育課程への反映には至らないが、留学生に向けた個々の能力に応じた教育方法を大学院ワーキンググループで検討しながら実践を進めている [4b-6]。 【課題事項対応】についてはいずれも対応がされていることが根拠資料から判断された。	
長所・特色	
[0405]1 年次より「中間報告会」をはじめ第 3 者の審査及び評価を受けるなど、年次進行で院生の学習成果を確認する仕組みを作っている。[4b-4]	
留意点	*各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 教育学研究科

基準 5 学生の受け入れ

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☑ 2024 年度課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0503	大学院生募集のための継続的な組織的な取り組み
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022 年度のピアレビュー報告書によると、受け入れ大学院生数について、現実には、定員未満となっており、志願者数を増やす具体策の検討を求められた。これを受けて、教育学研究科としての説明会を、2023 年度より継続的に年度初めの早い時期から開催した。2023 年度には、リカレント教育の視点から、研究科を卒業生の再教育の場として位置づけ、学位授与式時に卒業生に教育学研究科のチラシを配布し、PR した。2024 年度も、大学院進学に関する説明と院生室への招待イベントを行った。教員は学科会議で学部 4 年生の進路状況を把握して、ゼミ担当からの説明を行ったり、大学院生と学部生の交流会への参加を促したりした[5-1][5-2][5-3][5-4][5-5]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0501	大学院生の受け入れ方針に基づき、大学院生募集および入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公平、公正に実施していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)院生の受け入れ方針は、少なくとも学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程）に設定しているか。 (2)院生の受け入れ方針は、入学前の学修歴、学力水準、能力等の求める院生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。 (5)すべての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。			
現状説明				
大学院の入学生受け入れ方針を教員間で確認し、入試システムおよび入試に関しては、研究科内で入学試験に対応するチームを編成し、AP に基づいた入試問題の作成、面接を実施し、公正・公平性についても留意している。 HP 上に掲載した学修目標、DP、CP のもとで入学者に求める基本的な資質については、志願者にもわかりやすい表現としている[5-6]。				

評価項目	0502	適切な定員を設定して院生の受け入れを行うとともに、在籍院生数を収容定員に基づき適正に管理していること。	自己評価	B
------	------	---	------	---

評価の視点	学士課程全体および各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍院生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。
現状説明	
定員は 12 名であるが、2023 年度入試から 2025 年度入試の〔志願者数と入学者数〕の推移は、2023 年度〔1 名、1 名〕2024 年度〔4 名、3 名〕、2025 年度〔3 名、1 名〕という結果となった[5-7][5-8][5-9]。大学院の定員を 12 名から 3 名へ削減する対策を検討した[5-10][5-11]。	

評価項目	0503	院生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)院生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、院生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
入学者数は、2022-2023 年度は各 1 名、2024 年度は 3 名に増えたが、2024 年度の内訳は、2/3 が中国人留学生である。在籍院生数は、2022 年度 4 名、2023 年度 3 名、2024 年度 6 名であり、2024 年度の内訳は、外国人留学生が 1/2 を占めている。この結果を踏まえて、2024 年度は東京を中心に日本語学校および、大学院予備校を訪問し、在学生の報告を兼ねて、学生募集対象者の情報収集を行った[5-12][5-13][5-14]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0503	学内の在学生を対象とした説明会開催
項目 No. 0503	学部生と院生の交流の場を院生室で開催
項目 No. 0503	日本語学校・大学院予備校訪問

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0503	大学院生募集のための組織的な取り組み
今後の改善・向上方策	
学部の卒業生のリカレント教育や、研究科修士生からの本研究科のアピールを含めた取り組みを組織的にやりたい。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
[0501] 入学試験に対応するチームを編成し、AP に基づいた入試問題の作成、面接を実施し、公正・公平性についても留意している。
[0502][0503]大学院進学者数は毎年数名程度、そのほとんどが他の大学院へ行ってしまう。2026 年入試より定員を 3 人に削減するなど定員管理に対応されながら、リカレント教育の提案、院生と学部生との交流会開催、日本語学校お

よび大学院予備校を訪問して留学生のリクルートなど、大学院生の確保のため様々な取り組みを実施されている[5-10][5-11]。学生達にとって「大学院に進学して自らのキャリアに役立つ」点を、教員にとって「院生を受け入れることで自身の研究・教育が大いに盛り上がる」点を整理し、現在実施されている学生募集等へ反映いただくと良い。[0503] 院生の受け入れにかかわる状況を定期的に点検・評価を実施している[5-12][5-13][5-14]。	
長所・特色	
[0503]日本語学校・大学院予備校を訪問して留学生の受け入れを進めている。本学国際交流センターと連携した日本語教育サポート体制、学部で中国人・韓国人教員による母語での指導・サポート体制が整っている。留学生は安心して研究ができる環境である。	
留意点 *各項に留意点レベルを記入 【A】緊急の改善を要する事項 【B】検討を要する事項	
[0503]日本人学生が減り国際人材ニーズがますます高まっていることを受け、(1) 正規留学生の受け入れ増加、(2) 海外研修等の更なる充実、(3) 国際人材の就職先確保、を早急に着手していただきたい【A】 [0501]学生にとって「大学院に進学するメリット」、教員にとって「大学院生を増やす研究・教育的効果」をいまいちど確認し、学生募集に反映させていただきたい。【B】	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 教育学研究科

基準 6 教員・教員組織

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 2022 年度課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0605	小規模な大学院の運営に関する業務等の組織化
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
大学院生が3名程度の小規模な大学院の運営について、業務の組織化に関する議論を行ったが、組織化する必要性が現実的に考えて乏しい上、過剰な組織化に伴う書類作成・会議の増加など、本来、教育や研究を行うための時間を損なう可能性もあることから、現状の形態を基本にして大学院生の要望等に柔軟かつ迅速に対応できるようにしていきたい。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0601	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)大学として求める教員像や教員組織の編制方針に基づき、教員組織を編制しているか。 ※具体的な例 ・教員が担う責任の明確性。 ・法令で必要とされる数の充足。 ・科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成。 ・各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理。 ・複数学部等の基幹教員を兼ねる者について、業務状況や教育効果の面での適切性。 (2)クロスアポイントメントなどによって、他大学または企業等の人材を教員として任用する場合は、教員の業務範囲を明確に定め、また、業務状況を適切に把握しているか。 (3)教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか。 (4)授業において指導補助者に補助または授業の一部を担当させる場合、あらかじめ責任関係や役割を規程等に定め、明確な指導計画のもとで適任者にそれを行わせているか。			
現状説明				

教育学研究科の教員組織に関しては、大学院教育の対象となる院生が3名程度と少ないことから、大学院WGで教育学研究科に関する活動の企画・運営を実施している。大学院WGによる集中的な対応を実施することにより、大学院生の多様な研究に対する志向性等に柔軟かつ迅速に対応することが可能であり、院生の研究活動や教育を滞りなく進めることができていることから、大学院の規模に適した現実的な運営である。 大学院教育においては、修士論文作成を中心とした院生の研究支援が教育の中心となる。院生を指導する教授等については、院生の志向性に対応した大学院所属教員が指導教授等を務める。指導教授等の選定にあたっては、入学当初のオリエンテーション[6-1]で、院生が作成した研究計画書を参考にするなどして院生と大学院教務担当教員が面接を行い指導教員等の候補者を決めた後、候補者として挙げた教員と大学院生とが個別に面談を行い指導教授等を決定する。なお、指導教授等は署名・押印により責任の明確化を図っている[6-2]。				
--	--	--	--	--

評価項目	0602	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。	自己 評価	A
評価の視点	(1)教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準および手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っているか。 (2)年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また、性別など教員の多様性に配慮しているか。			
現状説明				
教育学研究科を本務とする教員はすべて現代教育学部教員であることから、本事項に関する内容は、現代教育学部の当該部分に記載した以下の内容と同一である。 現代教育学部では、学部の採用・昇格基準に従って、採用・昇格のプロモートを行っている。学部長・副学部長・学部長補佐・学科主任を構成員とした学部人事WGを学部内に設置し、年間計画にもとづいた人事を行っている。具体的には、昇格等を行う前年度末の学部人事WGで昇格等予定者を学科ごとに挙げ、学部全体のバランスを図るなど公正性に配慮した上で、プロモートを担当する教員を決めて昇格等に関するプロセスに入る。 教員の新規採用が激しい状況にあるために、年齢に配慮した人事を行うことには限界があるが、複数の採用予定者について、類似する研究・実務業績等がある場合には、より若年の教員を採用する方針で採用人事を行っている。また、韓国・中国出身の教員を採用するなど、教員の多様性にも配慮した人事を行っている。				

評価項目	0603	教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発および改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 (2)教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 (4)教員以外が指導補助者となって教育に関わる場合、必要な研修を行い、授業の運営等が適切になされるよう図っているか。			
現状説明				
教育学研究科を本務とする教員はすべて、現代教育学部教員であることから、本事項に関する内容は、現代教育学部の当該部分に記載した以下の内容となる。 教員の教育能力の向上、および、教育課程や授業方法の開発および改善を目的にFD&SD委員会が中心となって企画した講演会等の諸活動を、研究科所属の教職員の希望などを参考にして年間計画に基づいて実施している。 教員の研究活動の活性化に関しては、学部紀要に加えて学部教員を基本的な構成員とした教育学研究所の紀要を作成し、研究成果の公表の機会を広く設けるなどして研究活動の活性化を図っている。社会貢献活動に関しては、社会貢献関連企画を推進する委員会を設け、年間計画の立案、各種社会貢献活動の実施状況および評価、課題の洗い出し等を行っている。				

評価項目	0604	教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組み			

	みへとつなげているか。
現状説明	
大学院の点検評価に関しては大学院 WG メンバーを中心に、これまでに実施してきた点検評価の結果と現状とを比較するなどして、日常の大学院教育の中で実施している。小規模な大学院であり、かつ、大学院担当教員はすべて現代教育学部に所属していることから、現代教育学部の各委員会が、大学院に関連した内容も必要に応じて扱うなどしており、学部が行う定期的な点検評価の中で大学院にかかわる事項も含んで処理している。	

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No.	(なし)

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No.	(なし)
今後の改善・向上方策	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点 *各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 教育学研究科

基準 7 学生支援

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 2024 年度課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	教員間で大学院生の情報の共有をさらに図っていく。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
0702 大学院生が少ないため、指導教員が個別に対応することが多いが、研究科全体として支援できるように大学院 WG でさらに点検し情報共有を図り、改善点について明らかにしている。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0701	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。	自己評価	B
評価の視点	(4) [修学支援 (学習面)] 学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか (補習教育、補充教育、学習に関わる相談等) (5) [修学支援 (学習面)] 障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っているか。 (6) [修学支援 (学習面)] 学習の継続に困難を抱える学生 (留年者、退学希望者等) に対し、その実態に応じて対応しているか。 (8) [修学支援 (学習面)] ICT を利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応 (授業動画の再視聴機会の確保等) を必要に応じて行っているか。 (10) [生活支援] 学生の心身の健康、保健衛生等に関わる指導相談を、学生の実態に応じて行っているか。 (11) [生活支援] 学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置 (学生の交流機会の確保等) を必要に応じて行っているか。とりわけ ICT を利用した遠隔授業を行う場合において配慮しているか。 (12) [進路支援] 各学位課程 (学士課程、修士課程や博士課程など) や分野等における必要性、個々の学生の特性等に応じ、就職支援のほか、職業的自立に向けたキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援を行っているか。			

	(13) [その他支援] ボランティア活動・部活動等の正課外における学生の活動への支援など、必要に応じた支援を行っているか。 (14) [学生の基本的人権の保障] ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応など、学生の基本的人権の保障を図る取り組みを行っているか。
現状説明	
0701 教育学研究科への入学生は、社会人、日本語を母語としない学生など多様であり、学生の支援ニーズも多様である。一方、大学院生数が少ないため、比較的時間をかけ丁寧に指導することが可能である。そのような状況を踏まえ、指導教員が修士論文指導を行う前後の時間などを利用して、短い間隔で学生から学習、生活、就職に関する支援ニーズの聞き取りを行い、その内容を大学院 WG の構成員が情報を共有し合い点検を行っている [7-1]。また、複数名在籍している中国人留学生の中で、特に日本語能力の低い学生に対しては、学部所属の中国人教員が国際交流センターと連携しながら、日本語支援プログラムを活用して言語面のサポートも行っている。[7-2] 0701 多様な背景を持つ学生、院生に対応したキャリア支援活動を行なっているが、外国籍の大学院生へのキャリア支援については実績が少なく、またビザの問題もあるため組織的な取り組みが今後必要である。	

評価項目	0702	学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
0702 教育学研究科 WG [7-1] を月に1回開催し、在籍学生の修学、学生生活、進路等の状況を各指導担当教員から報告、研究科教員全員で共有して、支援の方向性を常に確認し合っている。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0701	中国人学生に対する学部所属の中国人教員によるサポート
項目 No. 0702	教育学研究科 WG の活動

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0701	外国籍の大学院生へのキャリア支援についての実績が少なく、組織的なサポート体制が整っていない。
今後の改善・向上方策	
教育学研究科修士生のキャリア支援データを蓄積、分析し、組織的なサポート体制を整えていく。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
[0701]入学生は、社会人、日本語を母語としない学生など多様であり、学生の支援ニーズも多様であるが、大学院生数が少ないため、指導教員が修士論文指導を行う前後の時間などを利用して、短い間隔で学生から学習、生活、就職に関する支援ニーズの聞き取りを行っている。日本語能力の低い学生に対しては、学部所属の中国人教員が国際交流センターと連携しながら、日本語支援プログラムを活用して言語面のサポートも行っている。外国籍の大学院生へのキャリア支援については実績が少なく、またビザの問題もあるため組織的な取り組みが今後必要である。 [0702] 大学院生が少ないため、指導教員が個別に対応することが多いが、研究科全体として支援できるように大学院WGでさらに点検し情報共有を図っており、改善向上に向けて動いている。教育学研究科WGを月に1回開催し、大学院生の学習状況等について情報共有がされている。
長所・特色
[0701] 中国人学生に対する学部所属の中国人教員によるサポートを実施している [7-2]。 [0702] 教育学研究科ワーキンググループの活動により学生支援について対策の検討を行っている[7-1]。
留意点 *各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項
[0701]外国籍の大学院生へのキャリア支援についての実績が少なく、組織的なサポート体制が整っていない点への対応が望まれる。【B】

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 教育学研究科

基準 8 教育研究等環境

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 2022 年度課題事項 ☐ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0802	大学院生の研究志向に応じた、設備の計画的な更新（優先順位）と事業計画への申請
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
(1) 大学院生は研究志向に応じ、指導教員のアドバイスをもとに院生費で図書文献や備品等を購入している [8-1]。設備の計画的な更新と事業計画の申請については今後、学生の意見を交え、大学院 WG で検討する。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0803	研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。 また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め、かつ、学生も含めて研究倫理の遵守を図る 取り組みを行っているか。			
現状説明				
(1) 研究成果を発表する場として「現代教育学研究紀要」を年 1 回発行している [8-2]。教員が手分けして投稿論文を査読し、研究倫理や研究活動の不正防止のために学部 FD&SD 委員会が論文に該当部分がないか確認している [8-3] [8-4]。				

評価項目	0804	教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己 評価	A
評価の視点	(1)教育研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、教育研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
(1)指導教員が学生の研究室利用状況を確かめ、設備・施設等に関する要望を院生から聞き取るなどして、必要に応じて改修、増備をしている [8-5] [8-6]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0804	大学院生に院生費が支給されている。加えて、院生の要望を聞き取る定期的な面接活動を行い、院生室の充実を図った [8-1] [8-5] [8-6]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0804	設備の計画的な更新と事業計画の申請
今後の改善・向上方策	
大学院生の研究志向の明確化を図り、引き続き何が必要であるかを具体的に計画的に更新していく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0803	研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定める。
今後の改善・向上方策	
教育学研究科では大学院生に対する研究倫理等についての規程がないため、規程を定める。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	*各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 教育学研究科

基準 9 社会連携・社会貢献

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☐ 課題事項	☒ 2022 年度ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	社会貢献と教育学研究という長所を活かした学生募集を行うなどの検討を要する。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
・社会貢献と教育学研究という長所を活かした学生募集としては、教育学研究科の現代教育学研究所における社会貢献活動の様子を、学生募集に関わるメディア（大学案内、学科広報冊子）に掲載することにより、本研究科の社会貢献活動を学部学生募集に活かしている[9-1]。 ・教育学研究科の現代教育学研究所の社会貢献プロジェクト活動の研究成果は、現代教育学研究所紀要に所収し、社会に発信している[9-2]。	

☒ 2022 年度課題事項	☐ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	多様な社会貢献を実現するための院生数の増加
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
・大学院生数に関しては、中国人大学院生が増加傾向にあり、中国人大学院生の中には愛知県大府市で外国人生徒に対する学習支援・日本語支援ボランティア活動（地域多文化ネット WKY）に従事している院生がいる。多様な社会貢献を実現していくためにこうした院生数をモデルケースとして増やしていく。[9-3]	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0901	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。	自己評価	B
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関する方針のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知見、技術等を社会に還元する取り組みを行っているか。 (2)社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。			
現状説明				

(1)社会連携・社会貢献に関する方針のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っている[9-3]。

具体的には、教育学研究科現代教育学研究所の4つのプロジェクトを展開している。4つの社会貢献プロジェクトは、以下の通りである。

①子育てすくすく育て隊、②あつまれ！わんぱく隊、③なるほど！子どもアカデミー、④劇団くれよん

(2)社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっている。地域や社会の課題解決に対する貢献、そして大学の存在価値の向上に対する具体的な取り組みは以下の通り実施している。[9-4]

○子育てすくすく育て隊

- ・2024年5月12日（日）春日井市ワイワイカーニバル：紙飛行機飛ばし
- ・2024年7月6日（土）子育て子育て総合支援館：七夕を楽しもう
- ・2024年11月2日（土）中部大学：こどもまつり
- ・2024年11月3日（日）子育て子育て総合支援館：げんきっ子フェスタ
- ・2024年12月21日（土）子育て子育て総合支援館：クリスマスを楽しもう

○あつまれ！わんぱく隊

2024年度活動報告

- ・第1回目 2024年5月18日 みんなでピクニック 学生37人、子ども32人
- ・第2回目 2024年8月3日 自分だけのかさをつくろう 学生39人、子ども31人
- ・第3回目 2024年10月28日 葉っぱのプールに飛び込もう 学生33人、子ども30人
- ・第4回目 2024年11月30日 段ボールで遊ぼう 学生35人、子ども29人

延べ人数：子ども122人、学生144人

○なるほど！子どもアカデミー

2024年度は現代教育学科学生34名[1年生12名（PJ1：8名、PJ2：4名）、2年生11名（PJ1：9名、PJ2：2名）、3年生8名、4年生3名]が参加した。

(2) 活動の報告

春日井市内の公立小学校12校へ出向き、1回の活動で小学3～6年生10～30名程度を対象に、6、7、10～12月（1校1～4回）、土曜午前の2時間、学生が企画した活動を行った。

活動は、春日井市教育委員会、また公立小学校の校長先生をはじめとした教職員、企画管理指導者にご尽力いただき実施した。学生は活動当日までに、活動スケジュール及び活動企画書、児童配布資料の作成、さらに企画に関する教科理解などを行い、活動当日の企画運営（企画者）、記録（取材者）は学生主体で行い、活動後には反省会を行い、活動報告を通して学生間における学びの共有を図った。全29回の活動に対し、学生はのべ163人、児童はのべ461名が参加した。今年度は、8プログラムを実施した。

○劇団くれよん

◆メンバー：幼児教育学科15名、現代教育学科24名、合計39名

◆2024年度の活動：幼児向け（3～5歳児）の劇として「浦島太郎」、児童向け（小学生）の劇として「泣いた赤鬼」の2つを作り、公演を行った。また、活動10年目を記念して初の海外公演として韓国で「おむすびころりん」を公演した[9-4]。

◆公演実績

【公開リハーサル①「泣いた赤鬼」を公演】 2024年10月17日（木）18：00～19：00

【公開リハーサル②「浦島太郎」を公演】 2024年10月24日（木）18：00～19：00

※公開リハーサル場所：71号館3階多目的室

【中部大学祭で2回公演】

・実施日時

①第1回 2024年11月2日（土）11：00～12：00 「泣いた赤鬼」を公演

参加者：子ども26名、保護者26名、その他（大学生、OB等）18名、劇団くれよんメンバー35名、担当教員1名の

合計106名

②第2回 2024年11月2日（土）14：00～15：00 「浦島太郎」を公演

参加者：子ども11名、保護者15名、その他（大学生、OB等）31名、劇団くれよんメンバー35名、担当教員1名の合計93名

※場所：71号館3階多目的室

【げんきっ子フェスタにて「浦島太郎」を公演】 ・実施日時：2024 年 11 月 3 日（日）12：30～14：30 ・場所：春日井市子育て子育て総合支援館（かすがいげんきっ子センター） ・参加者数等：子ども 39 名、保護者 28 名、職員 6 名、劇団くれよんメンバー22 名、担当教員 1 名の合計 96 名 【本地地区社協主催 クリスマス会にて「泣いた赤鬼」を公演】 ・実施日時：2024 年 12 月 14 日（土）10：00～11：00 ・場所：本地会館（瀬戸市） ・参加者数等：子ども 29 名、保護者 21 名、職員・ボランティア 20 名、劇団くれよんメンバー18 名、担当教員 1 名 の合計 93 名 【瀬戸市社会福祉協議会主催 親子お楽しみ会にて「浦島太郎」を公演】 ・実施日時：2025 年 1 月 18 日（土）10：30～11：30 ・場所：やすらぎ会館（瀬戸市） ・参加者数等：子ども 24 名、保護者 18 名、職員・ボランティア 7 名、劇団くれよんメンバー21 名、担当教員 1 名 の合計 71 名 【小牧市立小牧小学校 放課後子ども総合プランにて「泣いた赤鬼」を公演】 ・実施日時：2025 年 2 月 18 日（火）15：00～16：00 ・場所：小牧小学校 ・参加者数等：子ども 27 名、教師 9 名、劇団くれよんメンバー17 名、担当教員 1 名 の合計 54 名 【韓国ソウルの保育園等にて「おむすびころりん」を 3 回公演】 ①第 1 回 2025 年 2 月 12 日（水）10：00～10：45 参加者：子ども 168 名、保育者 25 名、その他 10 名、劇団くれよんメンバー7 名、担当教員 1 名の合計 211 名 ②第 2 回 2025 年 2 月 12 日（水）11：00～11：45 参加者：子ども 68 名、保育者 10 名、その他 10 名、劇団くれよんメンバー7 名、担当教員 1 名の合計 96 名 ※第 1 回と第 2 回の場所：廣津子ども公演場（ソウル市） ③第 3 回 2025 年 2 月 13 日（木）11：00～11：45 参加者：子ども 110 名、保育者 22 名、その他 2 名、劇団くれよんメンバー7 名、担当教員 1 名の合計 142 名 ※第 3 回の場所：ヒルガオ保育園（ソウル市）

評価項目	0902	社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	B
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
(1) 大学院の社会貢献活動について、毎年度末に、大学院教育学研究科現代教育学研究所プロジェクト報告会を開催することを通して、社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握するようにしている [9-5]。 (2) 大学院の社会貢献活動について、毎年度末に、大学院教育学研究科現代教育学研究所プロジェクト報告会での点検・評価の結果を活用して、次年度の社会貢献活動に関わる研究所プロジェクトの計画立案をすることを通して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげている [9-5]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0901	2024 年度の劇団くれよんの活動では、幼児向け（3～5 歳児）の劇として「浦島太郎」を、児童向け（小学生）の劇として「泣いた赤鬼」の 2 つを作り、春日井市内を中心に公演を行った。また、2024 年度は初の海外公演として韓国ソウル市内の幼稚園・保育所の幼児、保護者、教員を対象とした韓国語劇「おむすびころりん」を公演し、好評を博した。大学の社会貢献活動として先駆的かつ独自性がある海外公演を成功させた [9-5]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0901	社会貢献活動に取り組む学生募集について
今後の改善・向上方策	
4 つの大学院現代教育学研究所プロジェクトに携わる学生募集については、学生生活の多様化や物価上昇による学生生活の貧窮傾向を受け苦戦している。毎年、新入学生学生生活オリエンテーションにおいて、各プロジェクト代表者がプロジェクト参加学生勧誘の活動を行い、改善・向上への取り組みの実施を行っている。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	*各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 教育学研究科

基準 11 大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☒ 2022 年度課題事項	☐ ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1120	会議資料等のデジタル化
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
会議に必要な書類を厳選するなどして、ペーパーレス化を進めている。会議の DX 活用に関しては、情報漏洩防止等に対応した設備増設など、実現に向けた課題があり、費用対効果を検証するなどしている。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S: 高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A: 概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B: 取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C: 今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
教育学研究科は修士課程に所属する大学院生が3名ほどの小規模な大学院である。しかし、保育をはじめとした社会福祉系の領域から、教育・心理学領域まで広範囲をカバーする研究科であり、大学院生の研究ニーズに対応した教員間の連携が重要である。大学院所属の全教員を構成員とした研究科委員会[11-1]と主要な所属教員を構成員とした研究科WG[11-2]を月1回のペースでそれぞれ開催し、大学院生のニーズに対応した教育・研究活動を行っている。なお、研究科委員会に関しては毎回、議事録を作成しているが、研究科WGに関しては大学院生個別の案件など、個人情報に触れることも多いことから、公式の議事録作成は行っていない。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色	《箇条書き》
項目 No.	「なし」

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No.	「なし」
今後の改善・向上方策	
「なし」	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	*各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

組織名

教育学研究科

基準（シートNo.）	根拠資料 No.	根拠資料の名称	提出 区分
2. 内部質保証 (NF2)	2-1	現代教育学部・教育学研究科合同 自己点検評価活動	○
	2-2	教職課程認定大学等実地視察について https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/menkyo/shisatu/1420159_00006.htm	○
	2-3	実地視察大学の概要	○
4. 教育・学習(4a) (NF4a)	4a-1	大学院学生便覧2024年度 p91-92	○
	4a-2	2024年度 春学期教育学研究科新入生オリエンテーション資料	○
	4a-3	2024年度 教育学研究科担当教員表	○
	4a-4	教育学研究科DP、CP	○
	4a-5	学事カレンダー（2024年度）	○
	4a-6	授業科目および単位数 教育学専攻（修士課程）	○
	4a-7	シラバス（例）	○
	4a-8	2024年度 教育学研究科時間割	○
	4a-9	シラバス点検用資料（2024年度第9回教授会資料）	○
	4a-10	2024年度 第4回教育学研究科委員会次第	○
4. 教育・学習(4b) (NF4b)	4b-1	実地視察大学等別報告書（中部大学）	○
	4a-7	シラバス（例）	○
	4b-2	大学院学生便覧2024年度 p92修了の要件	○
	4b-3	教育学研究科学位論文評価項目	○
	4b-4	大学院学生便覧2024年度 p92審査手順	○
	4a-9	シラバス点検用資料（2024年度第9回教授会資料）	○
	4b-5	2023年度 第9回現代教育学部教授会議事録	○
	4b-6	2024年度 第10回教育学研究科大学院WG議事メモ	○
	4b-7	大学院学生便覧2024年度 p91研究科・専攻の学修教育目標、指導の要領	○
5. 学生の受け入れ (NF5)	5-1	2022年度 大学院学部在学生勧誘チラシ「そうだ！大学院にいこう」	○
	5-2	2023年度 大学院教育学研究科入学試験説明会勧誘チラシ	○
	5-3	2023年度 大学院学部在学生勧誘チラシ「そうだ！大学院にいこう」	○
	5-4	2024年度 大学院教育学研究科入学試験説明会勧誘チラシ	○
	5-5	2024年度 大学院学部在学生勧誘チラシ「そうだ！大学院にいこう」	○
	5-6	2025年度 中部大学大学院入学試験要項 38頁 https://www.chubu.ac.jp/admissions/wp-content/uploads/sites/15/2024/06/2025md.pdf	○
	5-7	中部大学ホームページ 大学院受験情報 2023年度 https://www.chubu.ac.jp/admissions/wp-content/uploads/sites/15/2023/03/2023result.pdf	○
	5-8	中部大学ホームページ 大学院受験情報 2024年度 https://www.chubu.ac.jp/admissions/wp-content/uploads/sites/15/2024/04/2024result.pdf	○
	5-9	中部大学ホームページ 大学院受験情報 2025年度 https://www.chubu.ac.jp/admissions/wp-content/uploads/sites/15/2025/03/2025result.pdf	○
	5-10	2026年度 中部大学大学院教育学研究科 入学試験要項	○
	5-11	2024年度 第5回教育学研究科委員会議事録	○
	5-12	日本語学校等一覧：教育学研究科（留学生）関連情報の収集と学生募集の対象	●
	5-13	日本語学校等訪問計画	○
	5-14	訪問時の手持ち資料_日本語学校2025	○
6. 教員・教員組織 (NF6)	6-1	2024年度 春学期 教育学研究科新入生オリエンテーション次第	○
	6-2	研究指導教授申告書	○
7. 学生支援 (NF7)	7-1	2024年度 教育学研究科大学院WG議事メモ	○
	7-2	2024年度 現代教育学部所属教員 国籍一覧	○
8. 教育研究等環境 (NF8)	8-1	2022年度-2024年度院生費の手引き	○
	8-2	2022年度-2024年度FD&SD委員会活動報告	○
	8-3	2024年度 第1回現代教育学部FD&SD委員会（議事録）と配付資料	○
	8-4	「現代教育学研究紀要」投稿規程	○
	8-5	院生室図書リスト	○
	8-6	院生室設備リスト	○

9. 社会連携・社会貢献 (NF9)	9-1	『中部大学現代教育学部現代教育学科パンフレット』2025年度	○
	9-2	蘇珍伊「保育者・教師を目指す学生によるボランティア活動の教育的効果と課題 -劇団くれよん活動からの学び-」『現代教育学研究紀要』 Vol.18、2024.9	○
	9-3	サイフォン「日本における外国人児童生徒に対する進路指導・キャリア教育に関する 研究」2024年度 中部大学教育学研究科提出修士論文	△
	9-4	「中部大学大学院教育学研究科現代教育学研究所2024年度報告書」	○
	9-5	「2024年度 現代教育学研究所プロジェクト発表会資料」および、「2024年度 第13回 現代教育学部教授会議事録」	○
11. 大学独自の評価項目 (NF11)	11-1	2024年度 教育学研究科委員会次第	○
	11-2	2024年度 教育学研究科WG次第	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管